

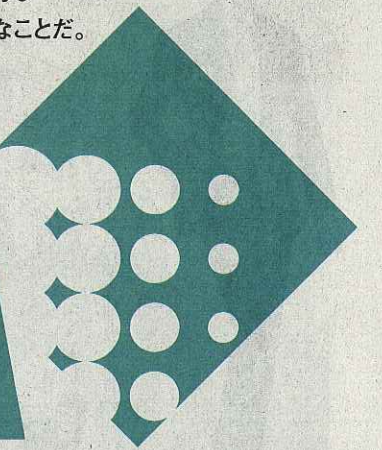
時代を動かす
朝日新聞
KeyWORD
2007
さまざまな言葉は、
人を動かし、
やがては時代を動かす可能性もあるのです。

世界基準誕生

今年9月18日、日本が開発した抗菌製品の性能を評価する試験方法が、国際標準化機構 (ISO) において国際規格として承認された。技術先進国・日本といえども、ISOという工業分野の国際的なルール作りの場で主導的な役割を果たしたのは非常に稀なことだ。これまでJIS規格として国内の標準であった試験方法が、今後はほぼそのまま、「世界基準」となる。

SIAA ISO 22196 for KOHKIN

経済産業省と抗菌製品技術協議会 (SIAA) の
推進によって、抗菌JIS規格 (JIS Z 2801) が
国際規格 (ISO 22196) になりました



細菌と共生する日本人の文化に根ざした「抗菌」

まな板やスポンジ、エアコンのフィルターやトイレ用品など、私たちの身の回りには「抗菌加工」と表示された製品が数多くある。しかし、抗菌とは具体的にどのようなものか、よく知らないまま使っている人も多いのではないだろうか。

「抗菌とは、製品の表面における細菌の増殖を抑制すること。菌を死滅させたり、除去する殺菌・除菌とは違います」

抗菌剤や抗菌加工製品の性能や安全性に関する規格・基準とその表示法を定めている抗菌製品技術協議会 (SIAA) の藤本嘉明専務理事・事務局長はそう説明する。

「JIS (日本工業規格) では、加工されていない製品の表面と比較して、細菌の増殖割合が100分の1以下である場合に、抗菌効果があると規定

しています。細菌が人体に悪影響を与えるのは、ある量を超えて大量に発生した場合がほとんどです。細菌の増殖を抑えていけば、多くの場合、人間と細菌は共生が可能なのです」

こういった抗菌の考え方は、清潔好きで、ナマモノを日持ちさせて食べる技術を持った日本人の伝統に根ざしたものだ。植物のもつ抗菌効果を利用した、笹寿司や柿の葉寿司などが私たちの好例だろう。抗菌の知恵は私たちのごく身近にある。

現在、抗菌加工が多く施されているのは、プラスチック製品だ。今日、プラスチックは多様な日用品に使われているが、銅や銀のようなそれ自体が抗菌効果をもつ素材とは違い、細菌が繁殖しやすい材質でもある。

日本のメーカーは抗菌剤をプラスチックに練り込むことで、抗菌効果を得る技術を世界に先駆けて開発した。

ただし、「抗菌加工製品であ

れば、掃除がいらさないわけではない」と、藤本氏はその正しい使い方を指摘する。

「表面が汚れていれば、抗菌効果は十分に発揮されません。常に清潔に保って使うようにしてください」

グローバルな時代に求められた国際基準

衣食住の安全に対する関心が世界的に広がった昨今、細菌に対する関心は世界的な広がりを見せている。輸入製品も生活者が安心して使うことができ、効果のない製品を市場から排除するためにも、抗菌性を評価する国際的な標準規格の策定が望まれていた。

「欧米では、細菌はすべて排除してしまえという殺菌的な考え方が主流です。しかしそれではより強い薬剤を使うことになり、安全性にも問題があります。もともと自然界にある常在菌の中には、悪い菌を増やさ

ない役割を果たしているものもあります。論議の場では日本の技術をアピールするだけでなく、環境の世紀にふさわしい、「KOHKIN」という言葉にこめた心を理解してもらおうことが重要でした」(藤本氏)

世界をリードする環境と安全への視点

日本の主張は世界各国から理解され、投票に参加した19カ国すべての賛成を受けて、日本の抗菌JIS規格がISOの国際規格として承認された。

これまでJIS規格の試験法に合格し、SIAAの安全性基準、および適正な表示を満たした抗菌製品には、安心の目印として「SIAAマーク」が付けられてきた。

「このマークの付いた製品は、飲み込んだ時の毒性、長く触れた時の炎症などのおそれ、遺伝子への影響、アレルギーという四つの安全性試験に合格した抗菌剤を使用しています」(藤本氏)

そのコンセプトを引き継ぎながら、今秋からは新たに「SIAA抗菌ISOマーク」へと進化させる。日本の抗菌加工製品が世界をリードし、安全で健康な暮らしに貢献していく。

抗菌

週刊朝日 特別広告企画

「日本発、抗菌技術がグローバルスタンダードへ」

諸永裕一氏 / 経済産業省 製造産業局 デザイン・人間生活システム政策室 室長補佐

奥 利江氏 / 主婦連合会

山本則幸氏 / 抗菌製品技術協議会 副会長

今井茂雄氏 / 抗菌製品技術協議会 ISO国際プロジェクトリーダー



11月16日号の『週刊朝日』に、日本発である抗菌試験方法のISO化の意義を官民業の関係者が語る座談会「日本発、抗菌技術がグローバルスタンダードへ」を掲載します。今回承認されたISO規格のベースとなった抗菌JIS規格は、メーカーと経済産業省、消費者の代表者たちの綿密な意見交換から策定されたもの。抗菌技術が世界に広がる可能性を期待しています。